

令和7年度 江東区立なでしこ幼稚園 自己評価表

園長名 松岡 克恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		質の高い幼児教育の実践			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・環境による教育の意味をよく考え、幼児がやってみたい、もっとやりたいと思えるような魅力的な環境を構成する。	81%	・好きな遊びや学級全体の活動を楽しめる幼児が90%以上になる	102%	A
2	・「こども主体の」意味をよく考え、こどもの思いが実現できるよう、幼児理解を深め、評価、反省、情報共有等を行い、教育の質を高めていく。	80%	・自分を十分に発揮し自分の思いが実現する楽しさを感じられる幼児が90%以上になる	97%	A
3	・幼児の知的好奇心や探究心を高め、遊びに没頭する中で様々な力が身に付くようにする。	78%	・様々なことに興味・関心をもって関わり、不思議さやおもしろさを感じられる幼児、試行錯誤して遊ぶことを楽しめる幼児が90%以上になる。	97%	A

<結果についての分析と改善策>

○分析

- ・環境による教育の意味、魅力的な環境構成の大切さは理解し、幼児の興味・関心、経験させたいことを踏まえ、新たな環境を提示したり教師も幼児と一緒に遊びを楽しむことを意識したりしてきた。その結果、幼児の興味・関心が広がり様々なことをやってみようとする幼児が増えた。
 - ・日頃から園全体でこどもを見たりこどもの行動の背景を考えたりする（幼児理解）ことができていると感じる。環境についてもみんなでアイデアを出し合い実践する姿が見られていたことがこどもが伸び伸びと遊ぶことに繋がった。
 - ・朝の環境整備の時間に教員間で相談しながら園庭環境の見直し、改善をすることを習慣観することができたが、戸外室内のつながりをもたせた環境の工夫という点では課題が残る。
- ・“こども主体”ということ意識し、日々の保育の中で“こどもにとってどうなのか”を考える機会は増えてきた日々の保育を振り返る、記録することは十分にはできないこともあった。一日を丁寧に振り返ることで幼児理解が深まりよりよい保育へとつなげることができるので努力していきたい。
- ・知的好奇心や探究心を高められるように言葉がけを工夫したり環境を準備したりしたが、遊びに没頭して十分に楽しむことが少ない幼児もいる。

○改善策

- ・園全体で幼児を見ること、情報を共有すること、環境をみんなで考えていくことは継続していく。幼児の興味がなくなった遊びの場の片づけ、素材の補充等を意識し、保育後は、毎日保育室の環境を整えることを更に意識する。
- ・各自が保育を振り返る方法、記録に残しやすい方法を考え実践する。
- ・探究する楽しさを感じられるように、遊びの過程がわかるような写真を掲示する、楽しんでいることをコーナー化する、学級の友達と共有できる工夫をする等していく。
- ・室内と戸外の繋がり、テラスの活用等を工夫していく。
- ・行事の精選を行い、ゆったりとしたカリキュラムの中でこども主体の保育が展開できるようにする。行事の意味を教職員間で共有していく。

重点領域 2		感じる心、しなやかな体を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・幼児が楽しんで体を動かして遊べるような体操や運動遊びを常に取り入れる。また、日常の動作（立って靴を履く、姿勢、体を支える、歩く等）を意識しながら幼児の体力作りを行う。	85%	・自分から体を動かそうとし、体を動かして遊ぶことが好きな幼児が95%以上になる。	100.3%	A

<様式1>

2	・手洗い、うがい、水分補給、いろいろな物を食べようとする等健康な生活に必要なことが身に付くよう、実態に合った指導を行うと共に、家庭との連携も丁寧に行う。	77%	・生活リズムが整い、健康な生活に必要なことを行える幼児が90%以上になる	97.8%	A
3	・園庭で様々な遊びが生まれるように、自然との関わり、場作り、運動遊び等を工夫していく。	87%	・園庭での遊びに変化が見られ、戸外で遊ぶことを楽しめる幼児が90%以上になる	102%	A
4	・教師も幼児と共に心を動かしながら、様々な感情体験ができるようにする。人と関わる楽しさを感じられるようにすると共に、状況に応じて気持ちのコントロールができるように心に響くような言葉を考えたり指導方法を工夫したりする。	83%	・いろいろな友達との関わりを楽しんだり自分の気持ちの調整をしたりし、人と関わる楽しさや協力して遊ぶ楽しさを感じられる幼児が90%になる	83%	B
5	・絵本やお話の世界を楽しんだり、想像する楽しさを感じたりできるように絵本の精選、環境作り、教師の言葉がけを工夫する。	80%	・絵本を楽しんだり自分のイメージを様々な方法で表現したりすることを楽しめる幼児が90%以上になる。	102%	A

<結果についての分析と改善策>

○分析

- ・ちょっとした隙間時間にも体を動かす工夫をしてきた。幼児の興味・関心に応じた体操やダンスを意識して取り入れるようにしてきた。日常動作での体の動かし方では個人差が大きく家庭と密に連携を図ることが大切であると感じる。指導計画を基に運動遊びが進められていない学年もあった。
- ・年少児は一年間を通して生活習慣が身に付くように丁寧に指導していったが、時間がかかったり個別に援助が必要だったりする幼児もいる。
- ・園内研のテーマでもあり、様々な工夫をしてきた。その結果、園庭で様々な遊びが出てくるようになり、園庭で遊ぶ時間が長くなった。また、自分たちが考えたことが実現できたという経験が自信となり意欲的な幼児が増えた。わからないことを調べたり自分なりに予測を立てたりする姿も見られるようになった。
- ・年少児は友達に関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを感じてきている。気持ちのコントロールという面では個人差があるが、少しずつ自分で気持ちを立て直そうとするようになってきた。幼児の心に響く言葉がけがなかなかできなかった。
 - ・友達同士でトラブルが起きた時には双方の思いに寄り添い、丁寧に関わるように心がけた。自分の思いを言葉で表そうとしたり、相手には自分と違う気持ちがあることに気づき、自分の気持ちをコントロールしたりするようになってきている。言葉遣いについては引き続き指導していく。(年中組)
- ・毎日、絵本の読み聞かせを行ってきたことでこどもたちは絵本が好きになりイメージの世界を楽しめるようになってきた。日本語の理解に差があるため、学級全体の読み聞かせの際、選択に迷うことがあった(年長組)。

○改善策

- ・年間を通して様々な運動遊びができるように工夫する。幼児からは出てきにくい動き(投げる、体を支える、踏ん張る、逆さになる、柔軟性等)や遊び(鉄棒、登り棒等)を意識していく必要がある。
- ・生活習慣に関しては、一人一人がどの程度、身に付いているのか時々実態を把握し、やり方を再確認したりこどもたちがやりやすい方法を考えたりしていく。
- ・園庭環境については引き続き月1回は全員で点検、改善をしていく。
- ・こどもたちはイメージの世界で日々過ごしていることも多く、そのことを踏まえたうえで言葉をかけていくことが大切である。何をどのように伝えるか、どんなことに気づいて欲しいかを明確にもち、どのような方法なら幼児に伝わるかを常に考えていくことが必要である。互いの保育を見る時間を作っていきたい。
 - ・様々な友達と関わり合うことで、多様な感情体験ができるように、教師が意図的に組んだグループでの活動を増やすなど工夫していきたい。(年長児)
- ・幼児期に出会わせたい絵本に出会えるように、教師の知識や教材研究が必要である。

<様式1>

重点領域3		保護者や地域とつながる開かれた幼稚園			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・教育内容が伝わるようにクラスだより、ホームページの更新、Instagram、写真掲示等を行うと共に、 幼稚園の良さ、質の高さ を保護者、小学校、地域に 発信 し理解を深める努力をする。	78%	・保護者アンケートの「幼稚園は教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定回答率が100%になる	97%	A
2	・地域の3歳児の受け入れ、かんがる一ひろば開催（年27回）、地域に出かける活動、小中学校、保育園との交流等を通して「 地域に開かれた幼稚園 」となるよう一人一人が努力する。	86%	・様々な人に親しみの気持ちを感じ、挨拶をしたり地域に関心をもったりする幼児が80%になる	95%	A
3	・ 保護者一人一人の話を丁寧に聴き 、保護者の気持ちを受け入れながら 信頼関係を構築 し、共にこどもを育てているという気持ちを感じ合う	87%	・保護者アンケートの「教師は保護者の話をよく聞こうとし悩みに寄り添ってくれる」の肯定回答率が100%になる。	94%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○分析</p> <p>1・Instagramで頻繁にこどもたちの様子を発信できた。クラスだより、ドキュメンテーションは学年により差があった。研究協力園として公開保育、研究発表会を行ったので幼稚園の教育を知ってもらう機会にはなったが、日常的な発信、繋がりという点では課題が残る。</p> <p>2・かんがる一ひろばも定期的に開催し、活動内容も工夫しているが、保育園在園児の増加、未就園児預かり施設の増加が原因なのか利用者が減少していると感じる。</p> <p>3・保護者同士のトラブルがなく快適に園生活を送れるように、園庭開放時にも話をする時間をもったり保護者と保護者をつなぐように働きかけたりしてきた。</p> <p>・幼稚園が伝えたい内容と保護者が知りたい内容が違っていることがあり、うまくコミュニケーションがとれないこともあった。外国籍の保護者も多く詳しい内容まで伝えきれていないと感じる。</p> <p>○改善策</p> <p>1・簡単な方法でもいいので日々の保育の様子を伝える工夫をする。</p> <p>2、3</p> <p>・園だよりを近隣小学校、保育園に届ける等地域に出ていく工夫をする。</p> <p>・降園時、壁面制作を見てもらう、保護者同士が関われるちょっとしたゲームを行う等工夫していく。</p> <p>・園内の掲示も変化させ、かんがる一ひろばに来た方も園の様子が見てわかる工夫を図る。</p> <p>・園庭開放での保護者との関わりは大切にしながら、気になることがなくても家庭での様子を聞く、「今度ゆっくり話しましょう」等話しやすいきっかけを作る。</p> <p>・教師の休憩時間も考慮する必要があるが、親子deランチも保護者と話をする機会となるようにする。</p>					

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 - B：50%以上90%未満
 - C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）